



学校だより 11月号 NOV

令和2年10月30日発行

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する子 ～ふれあいがやき豊かな心～

ご協力 ありがとうございます

校長 高橋 美都子

さわやかな秋晴れのもと、10月24日に第37回「かもリンピック」を無事に開催することができました。

今回は、例年と全く異なり、多くの制限の中での運動会となりましたが、子どもたちはそれぞれのめあてに向かって精一杯取り組むことができました。

応援団長さんがリーダーシップを発揮しての応援練習。例年のように集まらなくてもできるように、TV放送で行うこともありました。声を出さずに応援できるようにとペットボトルマラカスを考え、決定したのは代表委員会の子どもたちです。

徒競走では大勢が集まる時間をなるべく少なくするために、着順確認後は速やかに児童席に戻るようにしました。1年生の玉入れも、何度も拾う際に密になることを避けるため、初めから玉を持つての入場でした。5・6年生のソーラン節もマスクをとって踊るため、声を出さずに、最後まで力を込めてそして思いを込めて踊りきりました。

運動会後の子どもたちの振り返りでは、「たまいで、よくねらってなげたらはいました。うれしかったです。」(1年生)「先生に、うでをふってまえを見てはしるとはやくはしれるといわれたので、そのとおりにやったら1いになれました。」(2年生)

「なかまをせいっばいおうえんしたことが心のこっています。ほかの学年もおうえんしすぎて、



手がひりひりしました。」(3年生)「動きをそろえようと考えながらおどりました。みんなで一

つになれました。」(4年生)「ソーラン節をやさしく教えてくれる6年生。がんばっている6年生を見本にして、来年もこんな5・6年生になりたいです。」(5年生)「自分がんばれば、他の人もがんばってくれることがわかりました。これから、自分から真剣に取り組んでいこうと思いました。」(6年生)とそれぞれに思いを綴っていました。



時間は例年より短かったかもしれませんが、中でも、子どもたちは自分の活動に力いっぱい取り組み、自分の頑張りを認め、それを誇らしく思い、また周囲の友達、上級生の、下級生の生き生きと活動する姿に共感し、感嘆する心をもっている。そんな子どもたちの成長に、私が胸を熱くする一日でもありました。

運動会が成功に終わられたのも、保護者の皆さんの多大なるご協力があったからと考えております。子どもたちの豊かな、そして忘れられない体験へのご協力に感謝いたします。本当にありがとうございました。

